

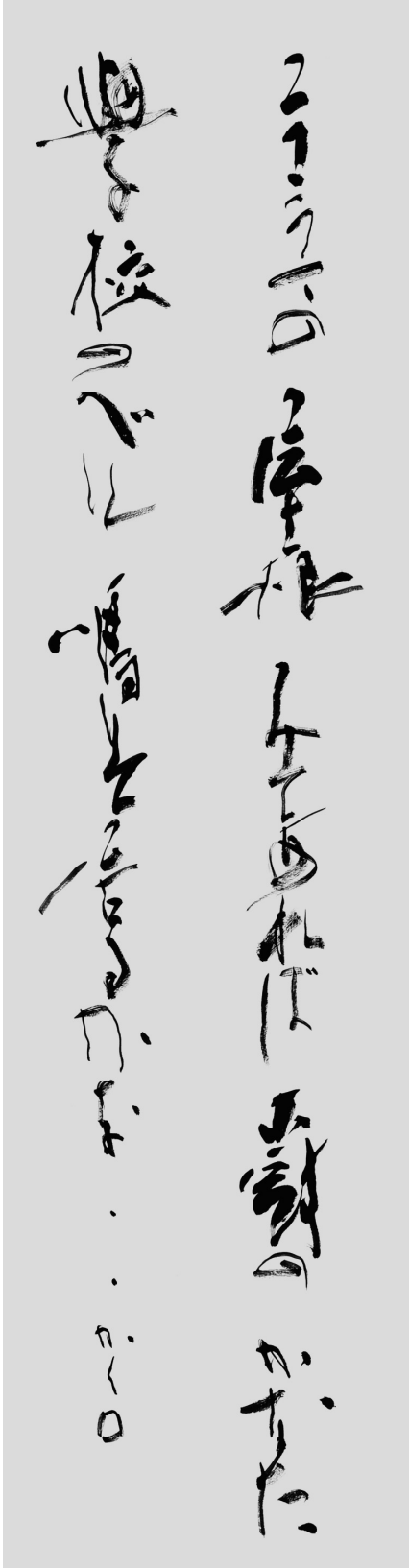
12月17日正午必着

明石春浦先生書



李白題詩水西寺 古木回巖樓閣風 半醒半醉遊三日 紅白花開烟雨雨中 (杜牧)

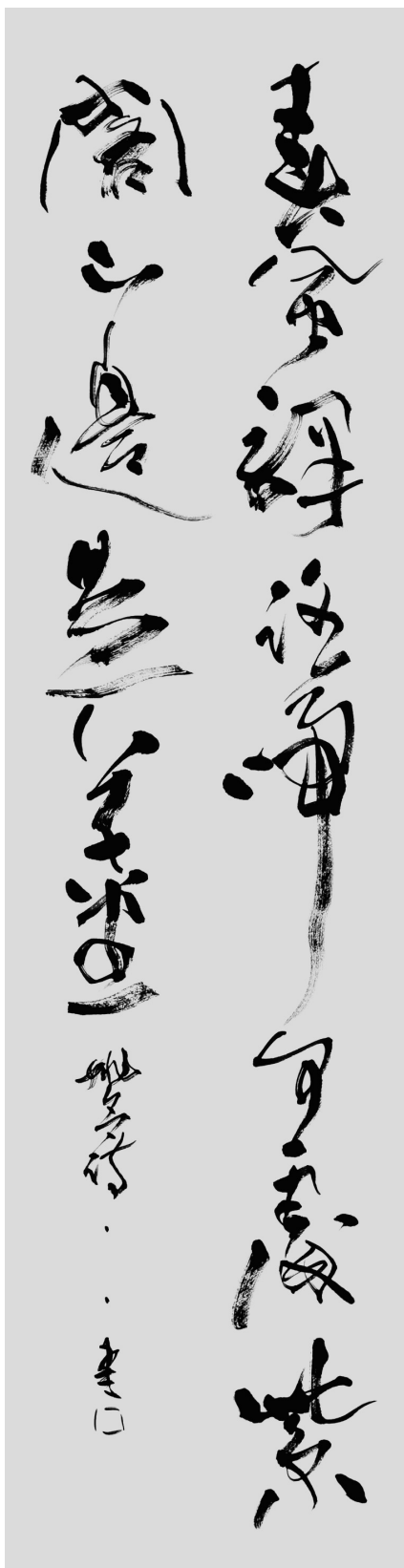
明石幸子書



ニコライの屋根みてあれば樹のかなた学校のベル鳴りて居るかな (中村憲吉)

12月17日正午必着

三浦士岳先生書



春風驛路歸何處

紫閣山邊是草堂

春日間行。

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

月落烏啼夜寒 (陳 普)

月落 烏啼 夜は寒し

霜は天に満ちている。張繼の楓橋夜泊の詩に「月落烏啼霜滿天」とあるにとる。

馬嘶險徑霜蹄滑 鷗舞半沙雪羽輕 (施 樞)

馬は險徑に嘶き霜蹄滑らかに 鷗は半沙に舞い雪羽輕し

雪景。

感秋林 (姚 倫)

秋林を感ず 姚倫

試向東林望 方知節候殊

試みに東林に向かつて望めば 方に知る 節候の殊なるを

亂聲千葉下 寒影一巢孤

亂声 千葉下 寒影 一巢孤なり

不蔽秋天雁 驚飛夜月烏

秋天の雁を蔽わず 夜月の烏を驚飛せしむ

霜風與春日 幾度遣榮枯

霜風と春日と 幾度か 榮枯を遣る

丘のうへの木立に多陽かたむきて濁ることなき 一日くれゆく (山口 茂吉)

半紙部規定課題A

12月17日正午必着

溪 吾  
上 在  
茲

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

12月17日正午必着

行書

吾在茲  
溪上

隸書

吾在茲  
溪上

明石春浦先生書

草書

吾在茲  
溪上

行草書

吾在茲  
溪上

胸を傷めつつ詩を吟じ、ただひとり歩む。すべてに深い感懷をもよおす。かの人が魚を釣ったところに久しく立ちつくすとき、ただ鳥の声がきこえてくるだけ。山中の蔬菜は雨にうたれて枯れ尽き、水辺の樹木が籬の中にはいりこんではえている。いまわれこの谷川のほとりにあって、君を懐しみ、悲しみ悼む気持をおし静めることができない。

經周處士故居

方干

愁吟與獨行

何事不關情

久立釣魚處

惟聞啼鳥聲

山疏和雨歇

海樹入籬生

吾在茲溪上

懷君恨不平

周処士が故居を經 方干

愁吟と独行と

何事か情に關わらざる

久しく釣魚の処に立ち

惟だ啼鳥の声を聞く

山疏 雨に和して歇き

海樹 籬に入りて生ず

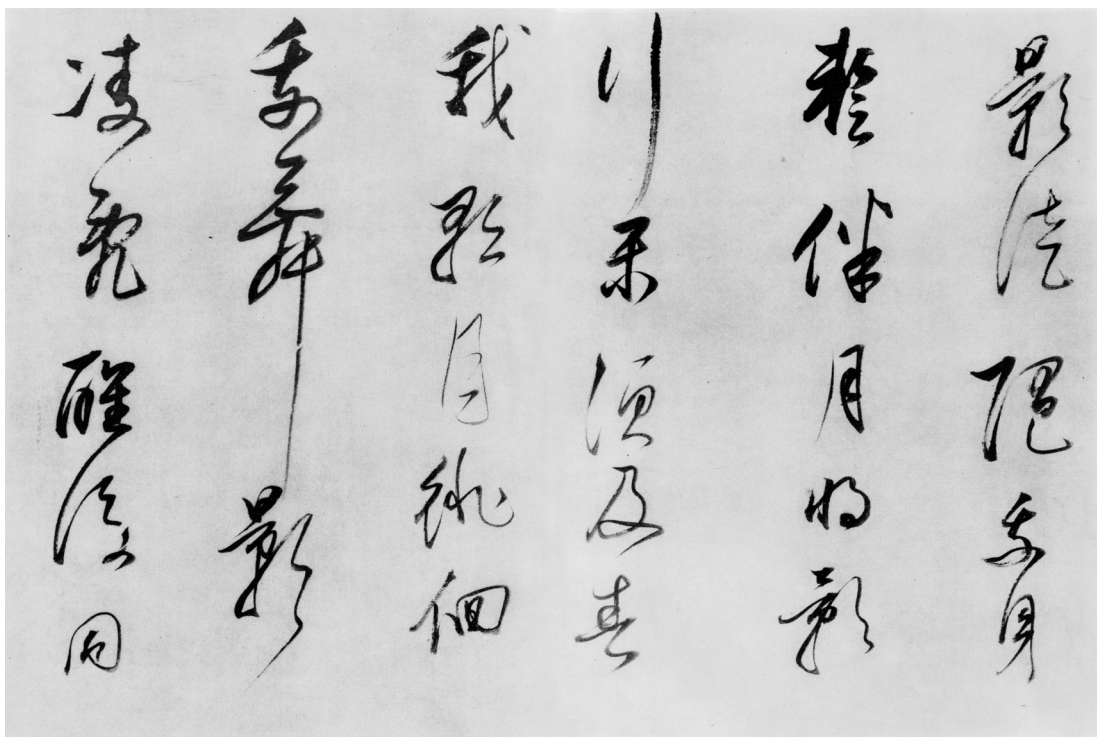
吾れ茲の溪上に在りて

君を懐うて 恨み平らかならず

朝日新聞社刊  
「三体詩」下より

12月17日正午必着

影徒隨我身 暫伴月將影 行樂須及春 我歌月徘徊 我舞影凌亂  
醒後同



董其昌・李白・月下獨酌

明代の書は、大きく三期に大別され語られることが多い。明が興って最初の百年の第一期は復古主義的な元代書法が命脈をつないだ時代であり、中期にあたる第二期はいわゆる「※吳中派」の台頭と、その活躍があげられる。文徵明・祝允明らが代表として、格調高く明朗な表現を築きあげ、新古典主義ともいえる印象を与える。つづく第三期は董其昌・王鐸の巨星達の活躍によって大きなうねりを伴うものとなった。特に董其昌は、清新な作風を築きあげ理論面においても優れた見識の持ち主であった。

彼は若くして進士に及第し、高官にまで上つた人であった。古今のあらゆる書を研究し、多くの名蹟を鑑賞し、王羲之の書に目標をおくに至った。同時に彼は米芾をよく習い、「自書」の書の基礎とした。

この月下獨酌は李白の詩を一六二六年の元旦に書かれたもので、董其昌七十二歳の時の作である。王羲之の書得て、すぐれた形似と韻致をあらわしており、瀟洒で垢ぬけしている点では、古今独歩というべきかもしれない。

※吳中派：明代の文人画を復興させた画家の沈周を師とし、あるいは友として集まった人たちが、後には更に拡大して文徵明・祝允明らが中心となった。  
(春廣)

雨宮春聲先生臨書



暫伴月將影

△做書参考作品▽

※この釈文での臨書部門の出品は出来ません。

暫伴月將影  
行樂須及春  
我歌月徘徊

暫伴月將影 行樂須及春 我歌月徘徊

衆人皆醉我何醒  
自得は自ら悟り得ること  
不平を抱かざること

よをあげてしるなくころじとくす  
舉世無レ知心自得

しゅうじんみなようわれなんさめん  
衆人皆醉我何醒(倪瓚)

自得は自ら悟り得ること  
不平を抱かざること。

12月17日正午必着

教育部毛筆



そう  
掃

じ  
除

中学一年

雨宮春聲先生書



い  
伊

せ  
勢

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。





榎戸春龍先生書

しょう

ぼう

小学五年



横川春川先生書

おう

しょう

小学六年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



12月17日正午必着



藤田幸春先生書

せい

生

かつ

活

小学三年



細谷春誠先生書

てん

天

たい

体

小学四年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

う た 小学一年・幼年



森戸春濤書

おな じ 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

12月17日正午必着

教育部硬筆

ペン字部

つめたい冬空にこだ  
まする子供らの声

小学五年

近づくと冬を感じさせ  
るような山の景色

小学六年

北国から届いた初雪の  
便りに冬の訪れを知る

中学

知らない街を歩いてみたい  
どこか遠くへ行きたい

一般(級位)

忘れるなみづは思はずおぼひそ  
く人の命の惜しくもあるかな

一般(段位)

忘れるなみづは思はずおぼひそく人の命の惜しくもあるかな(右近)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)  
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

い	き
	た
ふ	か
ゆ	ぜ
の	
あ	さ
さ	む

幼年

プ	北
ー	か
ふ	ぜ
い	が
て	
い	ピ
る	ー

小学一年

か	つ
ら	め
ふ	た
つ	い
て	雨
い	が
る	朝

小学二年

ら	冬
め	の
く	夜
ほ	空
し	に
た	
ち	き

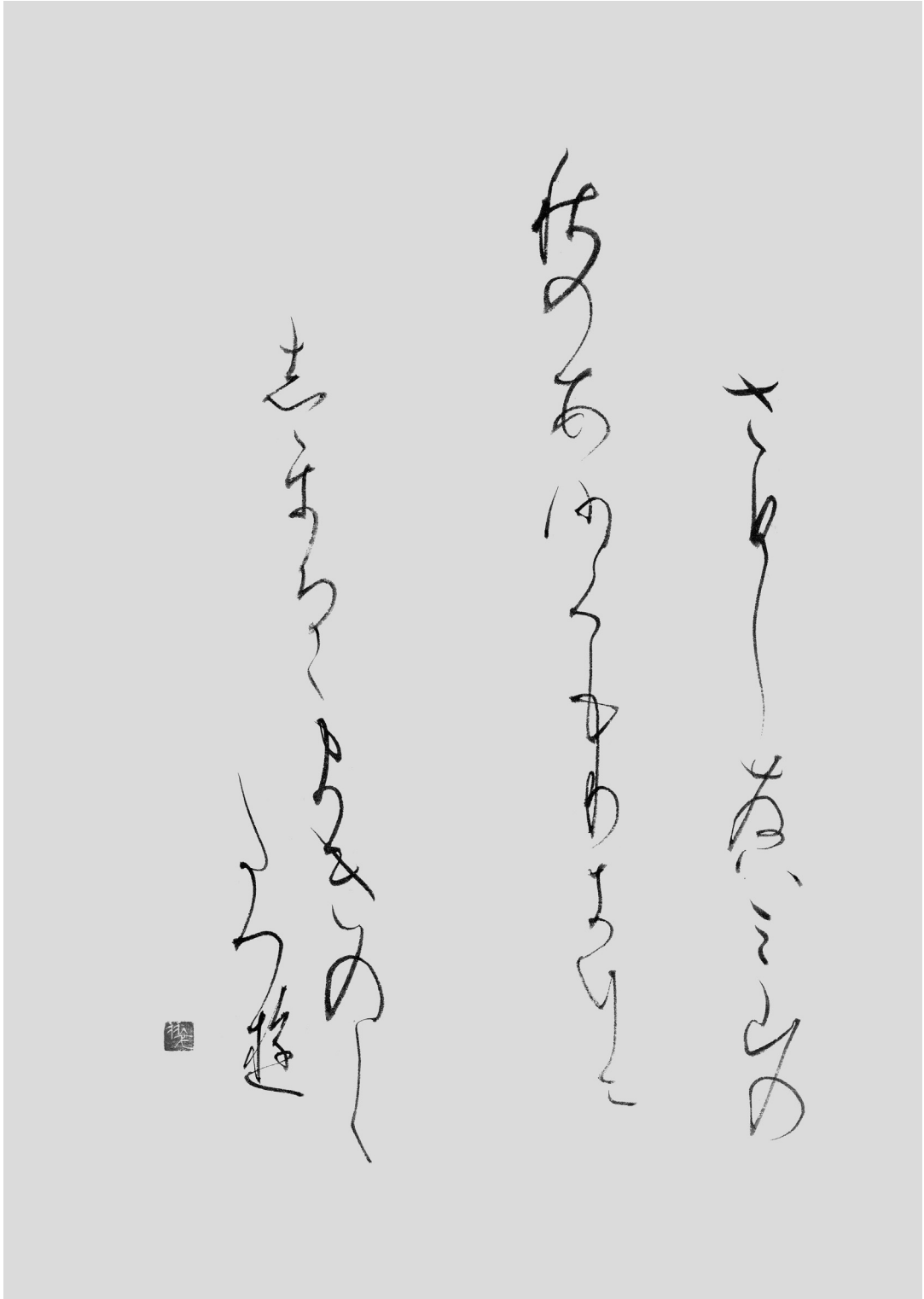
小学三年

よ	北
り	国
が	か
と	ら
と	初
ど	雪
い	の
た	た

小学四年

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)  
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。



松永翠舟先生書

さ  
日  
散  
八  
三  
み  
山  
の  
秋  
の  
あ  
さ  
ぐ  
も  
り  
利  
支  
き  
り  
に  
し  
お  
る  
ま  
き  
の  
し  
た  
つ  
遊  
ゆ  
(後鳥羽院)